

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p><教育課程> 幅広い学習ニーズに対応する教育の展開</p>	<p>①工業高校に学ぶ生徒の幅広い学習ニーズに対応できる学習環境の整備と指導体制の充実を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの力と意欲を引き出す、よりきめの細かい指導の実現に向けた少人数、習熟度別授業を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりにかかわる諸活動や課題研究の内容を充実できたか。 資格試験の受験者数及び合格者数は増加したか。 少人数、習熟度別授業を実施し、効果的な指導ができたか。(生徒へのアンケート) 	<ul style="list-style-type: none"> 小田原市のゴミ収集車のデザイン塗装や通学路の旗入れ製作など地域との連携による活動を実践した。 各種資格試験・検定試験の情報を随時提供したが、受験者数は昨年相当だった。 魅力と特色ある高校づくりアンケートで、回答した3年生の79%が、少人数・習熟度別授業の効果に満足と回答。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携したものづくりは生徒の充実度が非常に高く、参加生徒へのアンケートでは93%が参加してよかったと回答している。但し現在は地域と連携した活動に参加できる生徒数は限られている。 資格取得への興味や受験への意欲が低い生徒が増えている。意識の向上を促す工夫が必要。 少人数、習熟度別授業については、保護者アンケートでも76%が肯定的な評価をしている。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力と特色ある高校づくりアンケートにおける「高校での授業や活動が、生徒本人の将来のために役に立つ」との設問に対し、回答があった保護者の100%より肯定的な回答があった。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な取組みで成果を挙げており、生徒の満足度が高い。今後さらに充実させてほしい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携活動に参加した生徒へのアンケートでは93%の生徒が参加してよかったと回答し、自由記述でも「自分のつくったものが人の役に立ってうれしかった」「地域の人に喜んでもらいやりがいがあった」などの感想が多くあり、生徒の満足度・充実度の高さが伺えた。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年度はコミュニティースクールの指定校となることから、学校運営協議会及び各部会の活動を通して、学校行事の活性化やインターンシップ、デュアルシステム等の学校外の学習活動を充実させる。
<p><生徒指導・支援> (1)ものづくりを通しての人づくり教育の充実</p>	<p>①工業にかかわる授業において、職業人に求められる規範意識や倫理観の醸成と、遅刻指導など基本的な生活習慣の確立をめざした指導を徹底する</p>	<ul style="list-style-type: none"> 欠席・遅刻の数は減少したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度の全校生徒の欠席総数は、前年度比93.3%、遅刻は95.4%、早退は72.5%で、全体として改善傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からのホームルーム担任の粘り強い指導や、朝の身だしなみ指導などによる生徒へ指導の効果が上がっている。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻が多いことは朝家を出るまでの様子や学校からの連絡で分かる。家庭でも注意するがなかなか改善しない。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席の状況を数値化し、改善の目標設定をするとよい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席や遅刻の総数は改善傾向にあるが、更なる改善への検討を進める必要がある。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 欠席者数や遅刻者数を経年で比較ができるよう整理を進め、状況を把握しやすくした。取組の成果を実感することにより状況の改善を目指す。

<p>(2) 生徒一人ひとりに応じた教育支援体制の確立</p>	<p>①頭髪や服装の乱れを正す「身だしなみ指導」や、「あいさつ一斉運動」などの活動を年間通じて継続的に実施する。 ②校門指導・巡回指導・遅刻指導など教職員一丸となった生徒指導により、学校生活のルールやマナーを定着させるとともに調和のとれた人間の育成を図り、規範意識やモラル向上に努める。 ③クラス・部活動・生徒会活動など様々な場面において生徒間及び教職員との良好な関係を作り上げ、すべての生徒が健やかに学校生活を営める環境づくりを進めるとともに、教育相談コーディネーターを中心にスクールカウンセラー等と連携した教育相談体制を確立する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動の件数は減少したか。 多様な生徒に対して効果的な支援を行うことができたか。(教育相談やケース会議の実施状況) 	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動に伴う特別指導件数は、平成 25 年度を基準として、平成 26 年度は 47.6%と半減したが、平成 27 度は 109.5%となり、昨年度減少した件数が一昨年を超える状況にまで増加してしまった。なお特別指導対象者の 70～80%は 1 年生が占めている現状がある。 教育相談コーディネーター、養護教諭、担任が連携を密にとることで、昨年より効率的な支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校での学校生活に馴染みきれておらず、また職員との人間関係の確立も充分でない 1 年生の問題行動が目立つため、来年度は 1 年生に向けた効果的な対策を検討する。また、服装の乱れや授業中のスマートフォンや携帯電子機器の使用も目立つ状況があるので、改善に向けた取組を進める。 更なる教育相談体制の推進を図るため。校内研修を定期的に行い、職員の意識向上に努める。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが落ち着いた学校生活を送れるような環境づくりを進めてほしい。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題行動については、1 学年が多い状況にあるとのことだが、2 学年・3 学年にも指導を強化する必要があるのではないか。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 服装の乱れや、授業への取り組みが良くない生徒も目立つ。また昨年度減少した問題行動件数が本年度増加に転じた。このような状況の改善に向けた対応を、早急に進める必要がある。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活指導の内規を見直し、平成 28 年度からはフードつきパーカー着用の禁止やスマートフォンを授業前に回収する等、指導を強化していく。
<p>(3) 特別活動の充実</p>	<p>①職業人としての望ましい態度の育成に向けて、部活動や生徒会行事の活性化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭の内容の充実が図れたか。また、来場者数は増加したか。(校内及び来場者へのアンケート) 部活動への加入者は増加したか。 運動部、文化部の大会や発表会での成果は上がったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭来場者は 1939 名で、昨年度(1902 名)とほぼ同数だった。実施内容の充実については、ステージ、食品販売、展示、パネルについての生徒アンケートでは 87%の生徒が肯定的な回答をした。 部活動の加入者については、部活動見学会など、加入の促進に取り組んだ。その結果加入率が、運動部 35.4%(昨年度 35.1%)、文化部 47.9%(同 38.8%)と微増した。 運動部では、陸上部が関東大会に出場した。また、文化部では、自動車部、新機械技術部が全国大会に出場した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒主体の文化祭を目指し、生徒会本部や文化祭実行委員会の生徒を指導した。工業高校の中心である工業科展をさらに充実するために準備期間等について検討する必要がある。 部活動加入促進の取組が成果をあげた。今後は、中学生への部活動公開、在校生への成果の発信を積極的に行い、部活動の活性化をさらに図りたい。 成果が出ている部活動が一部にとどまっている。全体の取組が活性化するように、引き続き、備品や大会出場への支援を行う必要がある。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動費について、学校の予算で補えない部分を P T A で用意していたが、遠征費が残っている。この支出が増えていくよう、各部活動には頑張ってもらいたいと考えている。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化祭は学校の魅力を伝える良い機会となる。より多くの皆さんに来校してもらえるよう企画運営に工夫をしてもらいたい。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動加入者は微増したが、更なる活性化を図りたい。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入生オリエンテーションにおいて、各部生徒の制作による活動紹介ビデオの上映を行い、各部の魅力を強くアピールする。また中学生対象の部活動見学会及び体験会を企画し、平成 28 年夏休みより実施する。

<p><学習指導・授業改善> 確かな学力の定着と学習習慣の確立及び学習意欲の向上</p>	<p>① LHR等の時間に学校全体で取り組む学習活動「学びなおし」を実施し、生徒の学ぶ姿勢づくりと学習の習慣づけを進めて基礎学力の定着を図る。 ② 全校で取り組む研究授業週間のほか、教科研究会や年次研修として行われる 研究授業とも連携し、組織的な授業改善をめざした研究活動を実践する。 ③ 教科担当者が興味・関心の持てる教材やエピソードを準備し、生徒の学習意欲を引き出す魅力ある授業づくりを進めるとともに、実践内容を職員間で共有して組織的な授業改善を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学びなおし活動で基礎学力は定着したか。(診断テストの状況) ・研究授業週間において、教職員の授業見学の回数は増加したか。 ・生徒の意欲向上や言語活動の充実を意識した授業の展開ができているか。(生徒による授業評価) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベネッセの教材を用いた春の学力診断テストと、学びなおし活動を経た冬の前診断テストを比較すると、18%の生徒の成績が向上した。 ・研究授業週間に5つの授業を指定したが、本年は総計56名の見学者があり、昨年度比180%の伸びとなった。 ・生徒による授業評価では、80%の生徒が「意欲的に取り組んでいる」とし、71%の生徒が「話し合う機会や意見などを発表する機会がある」と回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びなおしで使用した教材は1種類で、生徒個々の能力の違いに対応しきれない状況があった。また、本年度はLHRの時間に実施したが、LHRで行う他の特別活動の時間が不足する場面もあったため、来年度は内容と実施時間の変更を行う。 ・組織的な授業改善に向けた職員の意識の向上が見られ、見学者の増加につながった。 ・本校の生徒の状況に即した指導について、さらに校内で情報を共有し、効果的な指導方法を模索する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校在学中、勉強があまり得意でなかったため、高校でしっかり勉強できているか心配である。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路が就職であれ進学であれ、基礎学力を身に付けておくことは重要である。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力定着に向けた学びなおし活動については一定の効果が認められたが、本年度実施した統一教材による指導では、生徒個々の学力向上を効果的に図ることは難しい。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりきめ細かな指導を行うため、工業科の専門性や進路に合わせた内容の検討を進め、平成28年度より新たな形態での指導を実施する。
<p><キャリア教育> 豊かな人間性と社会性の育成</p>	<p>① 工業各科と各学年団が連携し、生徒の進路希望に即したきめ細かなガイダンス、説明会、卒業生を招いた進路懇談会及び校外見学実習を実施する。 ② キャリアアドバイザーと連携し、インターンシップの充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路懇談会等で生徒の進路に向けた意識の向上が図れたか。(生徒へのアンケート) ・インターンシップの参加生徒は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路懇談会での生徒アンケートでは高い意識を示す記述も見受けられたが、生徒全体では進路選択に向けた意識の向上は十分でない状況である。 ・本年度のインターンシップ参加生徒は昨年相当の26名だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路選択に向けた意識の向上を図る工夫が必要である。 ・インターンシップなどの職場体験の意義を生徒に伝えるとともに、新たな受け入れ企業の開拓を進める。また、来年度はデュアルシステムによる職場体験も実施する。 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の進路について真剣に考えている様子がない。新3年の保護者として進路選びに不安がある。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今の若者全般にも言えるが、将来の生き方として目標をどこに持っていけばいいのかが分かっていない。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関しては、生徒の意識向上に向けたより効果的な指導が必要である。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路に向けた動機付けを図るため、インターンシップ推進に加え平成28年度よりデュアルシステムを導入する。
<p><地域等連携> 開かれた学校づくりと広報活動の充実</p>	<p>① 工業高校の特色を生かした地域と連携したものづくり活動や、地域貢献活動、小学生を対象とした夏休みものづくり体験教室を引き続き推進する。 ② 各種の学校説明会やホームページのほか、高校体験プログラム、授業・部活動見学会や文化祭などの公開行事を通じて、工業高校としての本校の教育活動への理解を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みものづくり体験教室の参加者に、ものづくりの魅力を伝えることができたか。(参加者へのアンケート) ・各種の公開行事で、来場者に本校の特色を理解させることができたか。(参加者へのアンケート) ・学校説明会の来場者数やホームページ(HP)のアクセス数は増加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートの回答では肯定的な意見がほとんどで、小学生にもものづくりの魅力を十分に伝えることができたと考えられる。 ・学校説明会への参加者は、昨年度比155%の264名(生徒149名、保護者115名)だった。また、11/3の学校説明会アンケートで88%が進路を考える上で参考になったと回答。本校の特色理解に効果があったと考えられる。 ・HPへのアクセス数は約2万5000件だった。(6/1～3/14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も内容の充実に向けて検討を重ね、地域貢献及び学校PRの一環として取り組んでいく必要がある。 ・11/3文化の日とした本年度の開催日設定について87%の参加者が良かったと回答。参加者増につながったと思われる。 ・HPアクセス数は本年度より統計を取り始めたため昨年との比較はできなかった。なお11/3の学校説明会前2週間の一日平均アクセス数は127回だった。(全期間の平均は約90回) 	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリントなどを持ち帰ってくるのが少なく、学校からの情報があまり入ってこない。 <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校案内などの印刷物よりホームページなど電子媒体の充実が効果的である。学校での出来事や部活動の状況などを速やかに発信すれば、中学生や保護者、また地域の住民へ学校の魅力を強くアピールできる。 	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等の電子媒体を活用した情報の発信が、効果的に進められていない現状がある。 <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校公式ホームページのリニューアルに着手して平成28年度より更新し、電子媒体による情報発信の充実を図る。また、電子媒体に頼らない手法についても、在校生に出身中学校を訪問させるなどの企画について検討を進める。

<p><学校運営・学校管理> (1) 安心安全な環境づくり</p>	<p>①工業教育にかかわる施設設備をはじめとした教育環境の整備と安全指導の徹底を図り、教育活動中の事故の発生を防ぐ。 ②災害発生時に的確な対応ができるようにするため、これまでに構築した校内及び地域との防災体制をさらに充実させ、高い防災意識の定着を目指す。</p>	<p>・教育活動中の事故は防止できたか。 ・地域と連携した防災訓練を実施することで、防災意識を高めることができたか。(生徒及び職員へのアンケート)</p>	<p>・日頃からの安全教育の徹底により校内での大きな事故の発生はなかった。 ・計画された防災訓練は円滑に実施された。訓練が形骸化しないよう常に配慮した。防災計画改定にあたって、県の指示を仰ぎ、組織の機動性と災害全般への対応を見直した。 ・12月に地域と連携した防災訓練を実施し、地域との絆を深めるとともに、参加した生徒の防災意識の向上が図れた。</p>	<p>・校外での生徒の行動において安全意識が十分でない面があるので、具体的な方策を検討していく必要がある。 ・常に高い防災意識を維持し、万一の事態に対応できる体制作りを推進する。 ・生徒も加わり効果の高い防災訓練が実施できたが、今回は限られた生徒のみの参加にとどまった。</p>	<p>(保護者) ・12月の防災訓練では、生徒によるリヤカーと車椅子を使った地域の高齢者の搬送や、かまどでの炊きだしなど、実践的で大変良い機会を持てた。 (学校評議員) ・地域との合同防災訓練は、生徒の参加もあり、大変に有意義であった。今後も様々な取組を期待したい。</p>	<p>(学校評価) ・大規模災害時には、学校は地域の災害対策活動の拠点となることを踏まえた準備が必要である。 (改善方策等) ・防災に関する活動についてコミュニティスクールの部会に位置付け、地域と連携した取組を推進する。また、生徒の環境整備委員会を防災・環境委員会に改編し、生徒とのかかわりを明確にする。</p>
<p>(2) 事故・不祥事の防止</p>	<p>①事故防止会議などを通して職員の意識を高め、事故・不祥事の未然防止や課題の早期発見、早期解決に努める。</p>	<p>・教職員が日頃から声を掛け合うことで、事故・不祥事防止の意識を高めることができたか。(事故防止チェックリストの結果)</p>	<p>・毎月1回事故防止会議を実施し、職員の事故・不祥事防止の意識を高めた。また不祥事防止個人点検シートを活用し、継続的な意識啓発に取り組むことができた。 ・個人情報の取扱いについて重点的に研修し、個人情報保護に向けた取組を全職員で実践できた。 ・入学者選抜において採点ミスが発生した。</p>	<p>・管理職の声かけに頼ることなく、教科やグループ内部からの取組を実施できるような工夫をする。 ・入学者選抜における事故防止に向けた取組について、時期を決め集中的に実施するようにする。</p>	<p>(保護者) ・入学者選抜のミスはあってはならないことである。再発防止に向けた対策を早急に考えて欲しい。 (学校評議員) ・教育公務員としての自覚を持ち、一人ひとりが事故防止に努めて欲しい。</p>	<p>(学校評価) ・入学者選抜の学力検査において、採点ミスがあるなど課題が残った。 (改善方策等) ・入学者選抜における採点ミスを職員全体で重く受け止め、来年度に向けた再発防止策を早急に検討する。</p>